

私の家では石けんを使っている。食器を洗うのも石けん、体を洗うのも石けん、洗濯するのも石けん。しかし、家の水は井戸水が流れており、石けんが固まりやすく相性が悪い。それを不便に思った私は一度、「どうしてうちでは石けんを使っているの。」とたずねたことがあったが幼い自分には母の説明がよく理解できず、つい最近まで「何となく」で石けんを使ってきた。しかし、一つの新聞の記事によって、私の石けんに対する見方が大きく変わることになる。

私の住んでいる福津市の隣の宗像市にある地島で実験が行われた。何となく読んでいた新聞に記されたこの記事に、私はくぎづけになった。シャボン玉石けん、宗像市、山口大学、九州環境管理協会の四者により無添加石けんが環境や生物にやさしいことを確かめるこの実験では、合成洗剤でなく無添加石けんを三ヶ月間、島民に使用してもらった。

「私の家と同じだ……」

しかし、今まで手間のかからない合成洗剤を使ってきた島民はどう感じたのだろうか。新聞には載っていないなかったその後の石けんの使用状況が気になり調べてみることにした。すると、驚くことに八割程の島民は継続して使用していることがわかった。ところが、そのことを母に話すと「今はあまり使用率は高くないそうよ。」

とのこと。実は母はこの実験についての講演を聴いていたのだ。なぜかを調べてみると、なるほど、値段が高い。その他にも石けんカスで服が白くなったり、使いづらかったりと欠点があるようだった。

実は実験の行われた地島は皇室献上わかめの採場で、石けんの使用によるわかめへの影響が明らかとなった。まず、十倍に希釈した合成洗剤と無添加石けん、添加なしの三つそれぞれにわかめの幼芽を二週間浸して生育状況を調べた。結果、合成洗剤につけたものは生長しなかったの

に対し、石けんは何も添加しなかったものと同じくらい生長したという。また、島民が三ヶ月間石けんを使った後の下水を調べると微生物がイキイキしている状態だったため、確実に三ヶ月前と比べて水の状態は良いと考えられる。結果として、石けんはわかめの生長にほとんど影響を与えず、さらに水を汚さないことが分かった。これを目のあたりにした島民の大半は漁業に関わっており、反応は大きなものだった。特に子どもたちの環境への関心が高まったことには驚いた。ただ、それゆえに値段などの問題で石けんから遠のいてしまうのは残念に思った。

石けんは水を汚さず環境にも良いその一方で値段や使いにくさなどの問題を抱えており、現時点では石けんを使う人は少ない。しかし、中でも工夫できるのではないだろうか。例えば、よくコマーシャルであるような合成洗剤は石けんカスのようなものは服につかない。これは色々な技術を使って解消していったための成果だ。このような高度な技術をもつ大手企業が石けんを改良して販売すれば、石けんを使う人が増えるかもしれないと思った。私は今まで石けんを「何となく」で使ってきた。しかし、実験から石けんの良さを知ること、石けんを使っている良かった、そしてもっとたくさんの人に石けんを使ってもらいたいと思うようになった。中学生の自分にも石けんの良さを伝えたりとできることはあると思う。自分たちができることをし、少しでも石けんを使う人を増やしていきたい。そして、きれいなままで「水」を次の世代へとつないでいきたい。